

(4) 水産生物被害防止基礎試験

貝類大量へい死原因解明試験

柘植朝太郎・中嶋康生・竹内喜夫

キーワード；アサリ，へい死，ヘテロカプサ

目的

Heterocapsa circularisquama (以下ヘテロカプサ) は貝類を特異的にへい死させるプランクトンであり、三河湾では、平成 12 年 8 月に本種による赤潮が初めて確認され、アサリをはじめとする二枚貝類の大量へい死が発生した。

平成 12 年以降、本事業では三河湾におけるヘテロカプサの発生メカニズムを明らかにすることを目的に、本種の発生状況の調査を行っている。なお、調査結果は関係機関へ Fax 送付した。

材料及び方法

調査点を図 1 に示した。平成 23 年 7～9 月に知多、渥美湾の 4 定点では月 2 回、伊勢湾の 1 定点では月 1 回採水、検鏡し、発生状況の監視調査を行った。採水は、水深 0m, 5m 及び底上 1m の 3 層で行い、同時に水温、塩分及び溶存酸素の計測を行った。ヘテロカプサの計数は生海水 1mL を直接計数した。

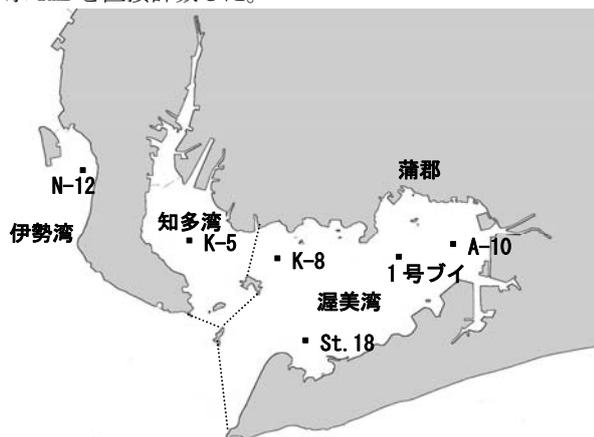


図 1 調査点位置図

結果及び考察

調査期間中、全調査点においてヘテロカプサは確認されなかった。

蒲郡地先にある自動観測ブイ 1 号の表層水温、塩分の変化をそれぞれ図 2, 3 に示した。調査期間の水温は 7 月上旬から 9 月中旬にかけて平年より高く推移した。また

塩分は、7 月以降低く推移した。

今年度はヘテロカプサの至適増殖月である夏季において、水温は高かったが塩分が台風や集中豪雨の影響により低い傾向にあり、著しい高水温、高塩分環境を好む本種の増殖には適していなかったと考えられた。

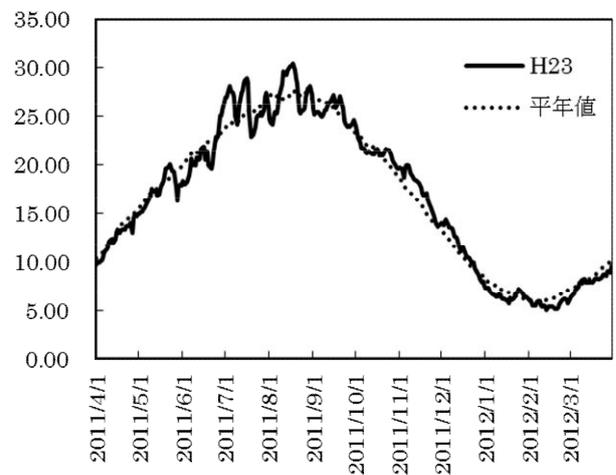


図 2 1 号ブイにおける日平均水温 (°C)

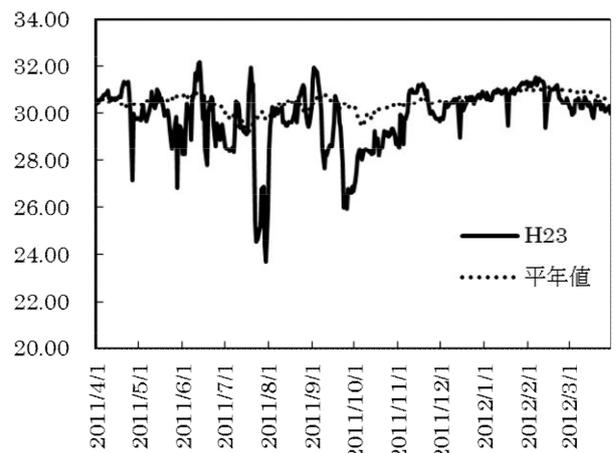


図 3 1 号ブイにおける日平均塩分